

消化器内科シラバス

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と信頼関係を築いて診療を進めることができるようになること。
- 3) 教科書的知識を再確認し、さらに、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題を、基礎的医学、臨床的医学の知識を応用し、さらには社会的要素も考慮して、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に考察・理解する。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

【到達目標（行動目標）】

- 1) コミュニケーションを通じ、患者および家族と信頼関係を築くことができる。
- 2) 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる(問診)。
- 3) 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる(現症)。
- 4) 主要な症候を理解し、鑑別診断の原則に基づいて以後の診療の計画を立案することができる(鑑別診断)。
- 5) 消化器内科領域で用いられる主要な検査について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる(検査法)。
- 6) 消化器内科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる(基本的知識)。
- 7) 収集した情報を基に、POMR<問題志向型診療記録>を作成できる(カルテ記載)。
- 8) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切に提示することができる(サマライズ・プレゼンテーション)。
- 9) 診療に必要な知識・情報 (MEDLINE やインターネット上で公開されている各種

の診療ガイドライン等の電子化情報を含む)を、適切に検索・収集することができる(情報収集)。

- 10) 医療チームの構成や各構成員(医師、薬剤師、看護師、技師その他のスタッフ)の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる(チーム医療)。

【注意事項】

- 1) 端正・清潔な服装を心がけること。白衣にネームプレートを付けること。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には社会人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんに対しては、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務、個人情報、患者さんのプライバシー保護には最大限気を配ること。また、不確実・無責任な情報は決して伝えないこと。
- 4) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーション・指導医の割り当てを行う。
- 2) 実習期間中は指導医と行動を共にし、指導医の指定する患者と一緒に診療し、主治医団の1人として入院から退院までの医療に参加すること。具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使う電子カルテとは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで記載すること。
- 4) 火曜日の外科・病理合同カンファレンスの際には、手術対象患者の消化器内科での検査結果、診断・治療方針を把握すること。また、消化器内科カンファレンス、病棟カンファレンスでは担当患者の情報をまとめ、発表出来るよう事前に準備しておくこと。

【当科の週間スケジュール】

	行事、等	場所	時間
月	オリエンテーション（第1週）	病棟カンファレンス室	8:30～9:30
火	外科・病理合同カンファレンス 消化器内科カンファレンス	西9カンファレンス室	17:00～17:30 17:30～18:00
水	内科カンファレンス	西9カンファレンス室	18:00～19:00
木	病棟カンファレンス	西7病棟カンファレンス室	17:00～17:30
金			

毎日午前 上部内視鏡、午後 大腸内視鏡 ERCP 関連 適宜随時
木曜日午前 肝臓血管造影・治療

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	30点
消化器内科カンファレンスでの患者提示	10点
合同カンファレンスでの症例提示	10点
学生用カルテの内容	10点
ポートフォリオの内容	20点
試問	20点

【実習指導医】

肝臓内科部長 山口修司
消化器内科部長 岡本志朗
内視鏡部長 児玉寛治
消化器内科医長 野間文次郎、畠山 剛、吉岡京子